ムサシノ

大正十一年十二月三日印刷
大正十一年十二月五日發行（金五錢）
編輯兼發行人　東京府下巣鴨町宮下一四五五　江尻登
印刷人　東京市外池袋九一〇　井出武
印刷所　東京府下西巣鴨町字池袋　藏野印刷所
發行所　東京府下巣鴨町字池袋　藏野學會
立教大學內武藏野學會
電話小石川四〇九番

大學生の注意を要する一條

立教大學教授　久保田富次郎

毛公、（太郎）が明治の初め、長藩の除長として東北に出征し、凱旋の後、朝廷及び藩主より、相當の恩賞を受けて、生活上何等の不自由を感ぜざることゝなるや、普通の人情を以て、すれば、勤藩の大勢力を利用し、更に任官の途を求れ、高位高俸を求むべきなり。然るに公は夢を斬り、刀を脱し（文字通りに）帥を屈して一書生となり、横濱語學所に入りて佛語を學び始めたり。暴慢無禮なる、少くとも我が士人をして斯く感ぜしめたる佛國尉官や下士官の下に熱心に柔順に佛語の研究に取りかゝれり。更に藩に乞ふて賞典祿を以て學費に代へ、自費生として歐洲に留學し、獨逸に入りて獨語を學習し始めたり。是れ通譯や譯書を待たず、親しく歐洲文物制度に接觸し、他日大に國家に貢獻するところあらんとの大志を抱きたるに因らずんばあらず。公が後日の勳業は横濱語學所の一生徒たりし時代に胚胎せしものなりと思はる。

今や明治維新を去ること既に五十餘年、此間に我國の政治も軍事も經濟も將た學術も一大躍進を爲したり。單に外國語に通ずるの故を以て、一身の榮達を期し、功を國家に立てんとの如きは、我國の對外交渉は政治に經濟に日に日に繁きを加へ、歐洲大戰の結果、西力益々東亞に展び、隨つて外國語の必要は却て愈々多大となれり。或る意味より言へば外國語の我國民に於ける重要さは、深さに於て感じ、廣さに於て加はれるものあるに似たり。

然るに我國の最高學府に於ては、學生の大多數が外國語の研究に熱心を缺くのみならず制度としても特殊の學科（英、獨、佛文科等を除きて）を除きては、之れが研究の施設の殆んど言ふに足るべき者あることなし。之れを往時の大學生に比して語學の道特に會話、作文に於て現時の大學生の甚だ劣れるを見る。之れ固より學科時間の配當、外國教師の聘用に於て已むを得ざる事情の存在に因るものなるべしといえども、一方に於ては大學生修業年限の延長したる事實あり。外國語學習の時間や方法の無きにしもあらざるべし。隨つて高等諸學校を見るに、今の教習方法を以てしては外語國の學習を該校だけにて打切る事の甚だ不安心なることは學生自身の明言するところなり。

我が官學に於て外國語の振はざること斯くの如し。隨つて私立大學に於ても當局者も學生も勉めずれば此風に感染し、語學を等閑視するの傾向あり。これが爲めに、個人としても國家としても少からざる不便と損害を招くことを免れず。實に嘆すべきなり。

一木興密顧問官等は實業の奇附により、當春、武藏高等學校を開設せり。其の目的とする所は世界的人物を造るにあり、世界の檜舞臺に立ちて十分に活動し得らる有爲の人物を造るにありと言ふ。而して一木氏は或る會合に於て該學設立の趣旨を明かにし、最も外國語の教習に努力すべしと公言し、我國人の外國語に堪能ならざるを慨嘆し、氏の地位よりして親しく感知し得たる所に據るも、巴里會議などに於て、邦人通有の缺點の爲めに國家の蒙れる不利盛の少からざりしことを指摘せられたりと云ふ。

氏は東大の出身にして又久しく教授の職に居られたるなり。斯の人よりして斯の言を聞く、一種の頑固者も大に覺悟するところあるならんと信ず。

顧みるに我が立教大學學生の傾向果して如何。十數年前大學の創立時代に於ては、今日に比すれば設備甚だ整はず適當の教師も聘用するに難く、圖書館もなく、教授の參考書すら全然これを缺き、加ふるに修業年限は今より一年少かりき。而かも當時の學生の如何に學問に熱心に、語學の如きは如何に日修の途を講ずるに汲々たりしを。而してこれ等初期の卒業生諸兄が各方面に立ちて其の材能を偏を顯はしたるを以て、或る會社銀行にては立大の卒業生と言へば、何れも人物は着実勤勉にして殊に英語は立派に出來る者と今も猶ほ信用し居り、時としては予想なして眞に恐縮に堪へざらしむることあり。予は我が當局者も學生も斯の點に於て注意猛省するところあり、特に學生の奮發勉强せられんことを希望に堪へざるなり。但し大學は單になる通譯の養成所にあらざることは言ふまでもなし。

限界效用說の弱點

此の一篇を恩師瀧本誠一博士に捧ぐ

本大學教授　大野信三

效用論價値論の一經濟學體系に於ける地位の如何に重要なるかは、正統派の祖アダムスミス、佛國西重農學派の人々の體系に鑑みてさへ知り得る所である。事實經濟學の發達とは效用並びに價値觀念の分析と其の應用の發展に外ならずといつて過言では無い。リカードに依つて此の方面が學者の注意を喚起せられて以後所々に此の分析に依つて得る法則を以て、經濟學體系を建てやうとする試圖を、暗示する者が輩出したが然も眞に經濟學が價値の學と迄なつたのは、漸く十九世記の中葉以後の事であつた。これ以前の英國正統派には此の方面の開拓は殆んど見るべきものがなかつた。故に此の方面の先驅者の名譽は不幸なる獨逸の天才ヘルマン、フリードリッヒ、ゴッセン（一八一〇—一八五八年）に歸する。「人間交通法則の發達」（Die Entwickelung der Gesetze menschlichen Verkehrs）は一八五四年の發刊に係り、世に彼經濟學に於てコルニカス、ケプレル、ニュートンの事績と對比し得るものと謳稱した法則を組織的に叙述したに不朽の名譽を獲得した所のものである。之れ有名な效用に關するゴッセンの三則である。

（一）「世には主として反復度數に依り人間滿足の合計が最大限度に達する各滿足享受の方法である。一旦、もの最大限度に達ければ滿足の總量は、もり類繁では無い反復に樣一層類繁な反復に依つて減小する。」

（二）「數個の滿足を自由に選擇する事が出來るが而かも其の凡ての完全に享受するに足る時間の無いときは滿足の最、限度なるものが爲めには滿足の絶對量が如何に相違しても假令其の內最大の滿足を完全に享受しない內でも一部宛凡ての享有しなければならない。而して此は其の者の消費の止む瞬間に各々滿足の高が同一で

Coffee & Tea
as they shou
紐育ベーカリー
池袋師範裏通
音樂教授
池袋一、一六六
自由音樂院
萩乃餅
すし
豊島師範筋横角
カフエー松村
ストン商會
牛込區鶴卷町電停前
電話番町一九八〇

ある樣な割合でなければならない。

三、人生の滿足の增加する可能性は、現在の條件を以てして猶新規の滿足を發見し、若しくは既に知られて居た滿足を擴張した際に存する。

讀者は之が今や殆んと何れの經濟學教科書でゝも遭遇する限界效用說の最初の組織的叙述である事を悟られるであらう。而して一度心理學に就いて所謂ヴェーバーの法則を知つた者はフェヒネルの法則を知つた者は一見如何に直ちに此の法則とゴッセンの法則との間に緊密な關係が存するのに氣付くであらう。ヴェーバーの法則とは十九世紀の中葉獨逸の生理學者(E.H. Weber が先づ其の研究を發表し、次いで Fechner が其の著精神物理學原論」(Elemente de Psycho-physik」で精緻な分析を加へて解說した感覺の强度と持續力に關する研究である。換言すれば、感覺が算術級數で增加せんが爲には刺戟は幾何級數で增加するので無ければならない、之を反面より見れば短時間に同一量で刺戟を繼續すれば、感覺の强度は減少すると言ふ法則である。ゴッセンの滿足量とは、此の法則に於ける刺戟に依る感覺量を取つて差支は無い。盡しゴッセンの心底を流れる哲學は、徹頭徹尾功利論だからである。

而して此の效用に限界を認めたものがゴッセンの所謂「最終單位價値」Werth der letzten Atome)、スタンレーヂェヴォンスの「最終效用度」p.inaldegree o、tility、レオン、ワルラスの「貴き」(rarete) の觀念である。斯うして其の根據を置く心理現象の正否、其の胸底を流れる根本哲學的前提の妥當如何は少焉措いても、經濟學上純主觀のみを以て一體系を樹て得る可能性は、此の限界效用說に依つて備へられた譯である。

墺太利學派は實に此の好機を攫んで充分之を利用して一學派を成したものである。限界效用說に關聯して縱しゴッセン、ワルラスの名が忘れられても、墺太利學派の三柱、カール、メンガー、フリードリッヒ、フライヘルン、フォン、ウイザー並びにオイゲン、フォン、ベム、バウエルクの名は本能的に聯想せられる所である。盡し墺太利學派は前述の限界效用の觀念を以て一種獨特な價値論—從來英國派の價値論に於ける廉價の觀念を全く第二次的即ち效用(需用)に從屬せしめる、換言すれば價値は一に限界效用に依つて決定すると言ふ—を立て、之を推して、分配論の領域に用ひ、凡ての生產要素の分配分の決定評價の基礎とした。利子も賃銀も地代も企業利潤も凡て、夫れ夫れ限界資本、限界勞働者、耕境上の土地限界企業家の價値に外ならない。分配論の難問も之を應用して、容易に、否寧ろあつけ無い感あらしめる程簡單に解決することが出來る何者各生產要素の限界を發見すれは問題は解決されたと同一だからである。墺太利學派が米國の經濟學者の殆んど全部獨逸のマイヤー、ラウル、フイリポウイッチ、ザックス、伊太利のコッサ、佛蘭西のブロック、和蘭ピールソンを其の信奉者に變ぜしめ、更に英國正統派の根據を動かしめた事は盡し偶然の事では無い。

斯く墺太利派の限界效用價値說が一代を風靡するや、之は必然正統派に代つて資本主義擁護の具と化した例へば利子論ではベムバウイルクの所謂未來財に對する現在財の割引—兩限界效用の差異—の中にはロスチャイルド家の貯蓄の犧牲と待料とが餘りある程に入つて居る。墺太利學派の社會主義反對は其心理的根底がブルヂョア個人的心理に基づく事實の當然の歸結でなければならない。

既に哲學は功利論であり、心理はブルヂョア個人的とも稱し得るものであるとすれば、墺太利學派の限界效用說並びに之より演繹した彼の尨大な體系は、果して是認し得る所であらうか。次に少しく詳細に檢覈して見たい。

墺太利學派の體系は上來屢々述べた樣に、其の限界效用說に築かれて居る。故に我々の論鋒は此處に集まらなければならない。而かも此の限界效用說は固と、人間欲望の表現である。詳言すれば供給條件の立てた欲望充足の制約の表現である。故に

一、效用方面よりすれば(a)彼等の哲學は苦樂心理(快樂說)に基づくと言ふ缺點を免れない。要するに其の哲學は近代資本主義精神　貨幣價値の獲得と感覺的滿足　の反映である彼等の價値論の根底は徹頭徹尾感覺である。否感情の場合さへ見る而かも此處には我々は欲求無くして感覺を有し、感覺無くして欲求を有し得るといふ反對事實の儼として控えて居るものがある。これ價値論の根底に盛覺の使用し得べからざる所以である、故に眞の理論的連鎖は先づ個人の性格を欲求性向次に欲求終りに其の欲求の滿足が來なければならない。快感情は欲求を決定するものでなくて欲求に依るものである。倫理學上の快樂說は夙にバトラーの手で打破された。經濟學上の此の一見明瞭なる快樂說は何故に斯く猶も害毒の手を擴げて居るのであらう。私は經濟學が on in (在)の學たる事を知つて居る。而かも on in の學であるが故に人間欲望の事實に反する墺太利學派を倒さなければならない事を感ずるものである b墺太利學派は個人主義合理主義に過ぎて制度上の重要なる事實動機上の重要なる事實を看過する譏りを免れない。事實社會的評價には慣習其の他の制度的勢力が多分に入る。我々は他人が一定の價格で一物品を購買するが故に購買する。又本能と多數の非合理的な力の働いて居る事も看過すべきではない。或る經濟制度の非合理的な本能で維持されてゐる場合も往々にして見る所である。c限界效用說は純個人現象である。而かも墺太利學派は之を以て市場の實際現象を說明し得ると言ふ。複雜なる趣味欲求感受性、購買力の相違を見る個人的心理の限界效用觀念を以てして果して彼等の言ふ社會的限界效用觀念を得る事が出來やうか。純個人的主觀すら一躍社會的客觀に飛んで行く事が出來るであらうか。此の抽象の影には複雜な幾多の假定が伏在するのではなからうか。兩者間のギアプは蹠の伏在するギアップらしく感ぜられる d限界效用と價値との主觀に過ぎて科學的に捉し難い。限界效用が價値を決定する。形式は誠に首肯される而かも科學的には實證せられない憾みは美しい繪畫を見て、之を理性の力では解決し得られないのと變らないとは限界效用說に會返して均しく得る印象である。科學は正確なる計量を求する。墺太利學派は數理派に似て而かも其の價値は數理的意味の數量ではない　二、限界即ち供給制約方面を見れば、是れ亦次の樣な不備の點が發見される所謂(a)限界は情況全部の索引に過ぎず限界單位は合計單位數がなる故にのみ限界單位である。事實全效用は限界效用に單位數を乘したものよりは大きい。更に我々が通常效用と言ふ時は、果して墺太利學派の數ゆる樣に、限界效用を考へるか否かは頗る疑問である。一定數の單位の一の財の供給に就いて效用を考へる場合には、我々は寧ろレキシスが注意した樣に最終單位を考へるよりも平均若しくは中間單位の效用（レキシスの所謂中間的效用）を考へるものではなからうか。寧ろ全部效用を計り一方には分量數に比例し他方では最初の單位と最終單位との中間的效用に比例すると言ひ得るに過ぎない。以上は唯代數性ある消費財に限る。我々が一個宛若しくは少量に使用する財の效用は、多くの場合供給が一定の目的に合した數量に一致する迄は、先づ增加する一つの財の連續した分量の效用遞減の代りに、カールメンガーは各目的の强度遞減を指摘して居る。換言すればゴッセンの第二則である。併しながら此の場合にも效用の尺度はゴッセンやメンガーの言ふが如くに正確なものは無い事は、我々の內省に訴へて知り得る所である。矢張り其の評價は極めて關係的性質のものである。故に我々は個人の純主觀的な限界效用と言ふが如き觀念では、價値の直接的測定の不可能な事を知るのである。之をのみ捉へて科學的取扱を爲すに適した材料を供する同質的數量に綜合して觀念する事は出來ない。其故に價値觀念には原價若

しくは經濟的拂底の觀念は必須のものである。而かも彼等墺太利學派の人々は上來叙べた所の樣に、些しも之を考慮して居ない。彼等は生產者の評價と賣手の給付の決定を說明し悉して居ない。否隨つて原價をも效用に約して以て此の難點の說明を回避する。其說明の不完全たるは玆に至つて明かである。

三、價値一般に就いて言へば更に一層疑惑を增す。盡し重大なる例外の徒らに多くして原則を原則たらしめない觀があるからである。競爭不完全の場合物々交換再生產の可能なる商品の場合等凡て之である。獨占價格の如き今日の經濟制度の基調を成す觀念を說明し得ないものを以て經濟學者の根底とする事は危險である。資本主義制度の根本を說明し得ない不完全な假定である。

マーシャルは此の點で效用と原價を結合して一部の成功を示したが、我々を以て言はしむれば、此の成功が果して究極的なものであるか否か多大の疑念を有するものである。寧ろ限界效用說を說明して、「限界價値は生產費を考察しない場合に一般財の關係的價値を決定するに過ぎない」と記し、更に嚴格な意味は經濟原則では無い、否更に嚴格な意味では經濟學中に入るべきものでは無くて、個人心理學に屬するものであり、社會經濟學即ち集合心理學に屬すべきものでは無い、故に主觀的使用價値には何等關する所は無いとして、此の觀念を一掃して仕舞ふオッペハイマー(Oppenhei: Theorie der reinen und politischen Oekonomie)の大膽な說に幾多共鳴する點を見出す。

要之價値說は今一段の進步を要求して居る。マーシャルの如き假定又假定で行く論法は、結局何物をも說明し得ない。資本主義的經濟制度の基本を攫んで、全的な價値論の根底を之に據えて、從來の「捉はれ」を脫するのが、今後の經濟學研究者の務めではなからうか。

一九二二・一一・一五

文藝欄

素人藝術の意義

本大教授 文學士 辻 莊一

この二三年この方所謂文化生活と云ふことが無暗に流行しはじめた。自分はこの文化生活なるものの眞意のある所を了解するに苦しむものであるが、すべての社會現象を通じて批判する場合に於ける吾々の立場は、又この現象に對しても適用しなくてはならぬかと思ふ。一般社會現象に對する吾々の態度と云ふのは、敢てその眞意のある所を定めないこと、又はじめから學究的に定義を下さないことである。即ちその逆にすべてその社會現象を廣く一括してそのうちから理法を引き出す態度に出なくてはならぬ。一犬實に吠え萬犬これに應じて虛に吠えることは現在の社會の事實である。アイシュタインの相對性原理が發表せられると、世の中の人は大騷ぎをはじめた。その大騷ぎは眞面目な研究者に對しては明らかに反感を催さしむるのであるが、この大騷ぎのために一般の人に與へた效果は一々列擧することが出來ないほど澤山ある。勿論中には相對性なる概念を、性の問題と關聯したことだと考へてゐるやうな愚劣極まる誤解もしないではあるまいが、それでも少し常識のある人には少なくとも物理學と哲學との間の微妙な關係を推知せしめるか、又は關係があると云よことだけでも了解せしめ、暗示したことは特筆すべきことである。

これと同じことが、文化生活についても云ふことが出來る。第一これは昔風の精神生活のみの文化生活と最近の唯物的生活との間の關係を造り上げることを各人に曖昧ながら敎へることが出來たのはその效果の一つである。この問題と關聯して一般に藝術が文化生活の中になり込まれて來たのであつて其結果特に音樂の方面が盛になつて來たことはゆるがすべからざる事實である。そのため音樂敎授を職とする人が到る所に出來たこと、樂器屋が繁盛することである。しかし音樂が流行しなくなつたことは後に說く所の理由にあるものであつてやゝ別の問題である。

この音樂流行の事實は 校音樂の方面に顯々しくあらはれた。最も保守的なりと思はれてゐた所の東京帝國大學に於いてすら、音樂部を設けて演奏會なし開くやうなことになつた。これは 般敎 の上から考へて誠に喜ぶべきことであつて、昔の人間のつまらぬ誤解は一々これを顧慮せずして、どん〳〵實行すれば良かろう。

それはさておき特に學校音樂の使命を考へたい。學校にある人々は少くとも知識上、社會の先驅者たる人であつてその人々がする所の道樂には副產物として相當のものが出來て來なければならぬ筈である。勿論學校音樂なるものがはじまつてから日

今秋英語劇大會に於ける「明暗」の一場面

日なほ浅いためその結果を上げるには、なほ早急であるが大體の日當でもつけることは出來ないであらうか。自分は具體の問題を一つあげて諸君の判斷に任せやうと思ふ。即ち日本の國家が經營してゐる所の音樂學校が、帝大の音樂部の活動に影響せられたと云ふことである。音樂學校の演奏は日本における最も權威あるものとして人々の許す處であつたが、彼ら音樂學校の敎職員は遂に懶惰に陷つたのである。彼らにとつては、管絃樂を努力しても、月給には何の關係もない。隨つてこれについて時間を費すのがいやなのである。これは機械的音樂家の最も不滿足な點であつて、このやうな欠點から、素人は全然開放せられてゐる。帝大の管絃樂は勿論その技は不完全であるが、何と云つても好きである故に、相談さへまとまれば無理をしてでもやることが出來る。彼らは遂にベエトオフェンの序曲や、シンオフニイルに手をつけるに至つた。この事は忍ち音樂學校の知る所となつて、今更のやうに騷ぎはじめ又反省しはじめたと云ふことである。これは一つの喜ぶべき現象であつて職業的音樂家の精勵は吾々素人の批判の後に出來るものである

次に一般の音樂會が流行しなくなつたことも、職業音樂家の怠惰と素人音樂との關係によつて十分に表明することが出來る。要するに素人音樂は、この音樂なる藝術が日本に對して比較的新らしい音樂であるだけに意義の多いことであつて益々奬勵すべきことであると思ふ。徳の姉妹藝術に關しても同樣のことが云はれるであらうが、今回は特に三に

づき易い問題のみを考察して終りたい。

無限

早高理科　高島　三郎

無限を背景としないものは淺薄である。秋の空に、投げ出された砂の樣に散らばつてゐる、あの星を見上げた時、人間の目の網膜に、宇宙其のものゝ深み、否、無限さが燒付げられる樣に明かに感ぜられる無限の暗黑と靜寂が天の無限の奥底まで廣がつて居る。人間はこの地上のみを俯向いて走り廻つて居る天を時々見上げる事が何の役に立つかと云ふ樣に彼等は俯向いて歩るいてゐる。如何に人間の思想上にその無限が力づよく働くかを知らない。

細胞や原子の樣な無限に小さきのみないはない、それは自然の無限な深淵さを意味するのである人間の偉大は無限を背景として初めて生れるのである。自分はその無限を命掛けて愛し、それに浸つて見たい。恐らく人間が喜と程愁の極に立つ時はそれは完全に浸り得た時だらふ。それが眞の喜だらう。又自分は自然科學が好きだ、それは自然の神秘と人間の神秘とを智力との間に生れた深淵な作品であからだ、そしてそれらの眞の探究者でありたい。それは無限に接する一本の路がそこに見出されからである自分は哲學も何も知らないけれど恐らく全ての方面に同樣な道があるだらうと思つて居る。

自分は少なくとも科學者の末席を汚し得させてもらふ事を喜ぶ。自然の探究に唯一の自分として充實さと喜を感じ得る。それは唯一のパラダイスであり、そこに無限がある、自分はたまらなく無限を愛したい命けて浸りたい。

宇宙は默して居るそして車輪の樣に廻轉して居る、但し彼は決して默しては居ない、打てば火が出る。彼は活動的であり積極的である。二度接すれば百萬の眞理を語るのである。人間は彼に接しようとしないそして偏屈に傾いて行く「自然に歸れ」――それは人間に與らるべき唯一の言葉である。

人間は無限に關して無關渉すぎるもつと〳〵自然そのものに觸れねばならない。私は再びいやたい偉大は無限から生れると。

大庭君からの切なる御進めによつて書いて見たのですが、つまらぬことを永々と書き立てゝ申譯ありません自分としては「ムサシノ」の創刊を御祝すると共にいさゝか所見を述べてみたつもりなのです。

散歩

せゝい吉

しんしんと綿のやうな雪が夜の靜寂ッた夜中からふり出して大川畔の柳といはず材木廂といはず細い電線までも白く蔽つてしまつた。

雪は未だ止みさうもなかつた、川畔を往來する人影は見當らなかつた。ただ白く蔽はれた向ひの土藏の屋根に巢をくつて居る二三の雀が寒さうにすくんでゐるのと川畔の柳の木の下に繋いだ廂のミサキから幽かに白い煙がたち昇つて居る許りだつた。何處かこの界隈の工場の氣笛だらう底强く長く二度鳴つた。

重なつた掛蒲團の中から平太郎は靜かに手を出して障子窓を開けて見た、雪は粉雪と變つてゐた、冷たい風がブーッと粉雪を誘つて室内へ吹き込んだ。

「おゝ寒い」

思はず斯う言つて窓を閉めた、そして又蒲團の中へもぐり込んだ。

「平太郎さんもう三時ですよ」

下の婆やが頻りに平太郎を起こしてゐた、仕方なく着物を取り變えて梯子段を下りていつた、水道の水は冷めたかつた、顔を洗らつてみてもどうも氣が晴れなかつた、炬燵の火を取り變へて新らしく作つた掛蒲團を掛けて入つた。

「おゝ」重苦しい吐息をついて頭を蒲團にこすりつけた。

どうして俺はこんなふしだらな人間になつたんだらう」

たまらなく苦痛を感じながら室内を見廻した。

吸ひからしの巻煙草が幾本も幾本も隅におしつけてある火鉢の中に亂れてさゝつてゐた、机の上も書きかけの原稿紙や同人雜誌の幾册かで亂されてゐた、そして其處には今にも落ちかけてる藤色の肘付のあるのに氣がついた、それこそ眞實に彼が初心だつた少年の頃を記念する美しい物の一だつた。平太郎は蒲團に頭すりしたまゝぢつとそれを見入つてゐた――と嫁いだ姉、姉の友の千代子、そして自分、其等の間に起きたいろいろの事が想ひ出されて來た。

姉が嫁いでから五日目だつた、その日は丁度秋も終りの或る小春日和の日であつた、大川畔の柳もやゝ黄ばんで風が吹くにつれて一葉二葉ちらちらと流れに散りかゝつていつた。

平太郎は千代子とつれだつて或る郊外を散歩した。

麗らゝかな日とはいえ晩秋の風が田圃を吹いて來る時はあらそはれない冬の近づいてゐることをしめしてゐた、凋調子の風矢は冷くゆれてゐた、白く塗られた密柱小舍は靜かによせてくる秋風をうけながら沈默を續けてゐた、幾本も幾本も立ち並んだ柳の木は葉も落ちてしまつて丸で枯れてしまつたかの樣に見えた、そしてかなり細い枝の股のところどころには藏雜ばかりになつた花ともつかない物がひつかゝつてゐた、黑くなつた〳〵木の細かに別れた間には小さな紫色した實が澤山熟してゐて時折百舌鳥の聲が靜かな雜木林の中に聞えた。二人は手をひかれて樣々の話を續けながら反射的に歩き續けた。

「平太郎さん、知つてる人が居なくて良いわネエ」

自分より年下の平太郎であるにかゝはらずうるさい世間を飾れて千代子は斯う言つた

「そうですネ」

さう返事するさへも平太郎は胸がどきしてゐた。

此の遠い郊外の道を歩るいている間に平太郎は千代子が姉の友であり自分より年上の姉さんであると言ふことをさへ忘れてゐた、そして或るなつかしみをおぼえてゐた、實際平太郎はその時がつて味つたことのない幸福を感じていたのだつた。

「あのぜのところで少時休みませう」

金色に反射して波打つてゐるぜの群生を指して千代子は言つた

「さうですネ」

二人は金色に波打つぜの傍で永い間休んだ

ぜを折りて海を偲く
岡かに遠き海を偲く

西條八十の「ぜの中」の一節を思ひ出して平太郎は幾度も心の中でくりかへした、なんだか寂しくなつて來た。

「どうしたの急にだまつてしまつて」

心配さうにのぞく樣にして千代子はたつねた、それから二人は沈默のまゝ歩き續けた、暮れ勝ちな秋の陽は大分西の森に迫つてゐた。

杉並木を抜けた時に二人は固い握手をして別れた。

左樣奈良、ぢやまたネ

えゝ左樣なら！

千代子は小走りに躍の方へと消えて行つた、うして平太郎がプラットホームに入つた時はもう千代子の乘つた電車は青いスパークを殘して十間も前に走つてゐつた。

平太郎はぼんやり遠ざかつてゆく電車を見送つて立つてゐた、言ひしれない寂みしさが胸にいつぱいにこみあげて來てとめどなく涙が頬をつたつて流れて來た、省線電車の青いスパークも赤い仁丹の廣告燈も平太郎にはなぜか涙ぐましく感じられた。

寂みしさうに平太郎は見入つてゐた肘付きから視線をそらした、

「あゝ」投げやる樣に吐息をついて蒲團に頭すりした。

外ばもう粉雪も上つて細い電線からはぽたぽたと小さな雪の魂りが道端へ落ちてゐた、大川の柳の小枝につもつた雪も吹いて來る風につれて漸次に拂ひ落されて次第に黑い皮膚を見せてきた。

一〇・一〇・三

「塔」　立大文學雜誌
いよ〳〵新年號出來ました、諸君至急お求め下さい
特價　一册　三十錢
立教大學文學部

新刊書籍と雜誌
美しいエハガキ
池袋師範裏通り
大地屋書店

支那料理で
得意の店は
日本一
池袋常盤通り

武藏野の一端に白秋の
詩の樣に赤いカフエー
が生れました
池袋大原一、三八〇
カフエーピンク

運命

シェレー作
深川 茂譯

憂し可憐さよ、我微笑みし花の瞳！
その瞳の色よ！
否、汝が――汝れのみが呼吸せし
あはれ甘き香よ、疾く消え失せし
凋みて生なき空しい、麥！
そは悲愁よ、吾薬てられし胸に
汝が冷き寂寞なる安息の床！
そは寄笑よ、吾未し温き心に
我は泣く――吾涙とて詮ん力なし
我は息吐く――ハヤ汝が呼吸し休みし
汝が無言に從順に守りし運命！
我も亦夫れなし受く可きの……運命

――一九二二・九・二〇――

久惱の内の愉悅

綠蔭

理想主義健闘主義の詩人として知られて居る彼の有名なるブラウニングは天籟の文字サワルの中に於て言つて居りました

これなりし人を高むるは
その爲す處にあらず
爲さんと欲する處と
吾々人間が吾々生ける魂が常に願ひ欲するする所のものはそも何んでありませうか平安か安樂か勵智か富か否吾々が常に願ひ求むる處のものは永遠なる伸展と無窮なる發達とであります人は生命のあらむ限り人は意識の存する限り廣き世界への融合と多くの魂への浸潤を企てゝ居ります總への者はより長くより大きく能ふ限りの力を振ひ能ふ限りの能力を以つて小より大へ淺きより深きへと不斷に進んで居ります我々は決して安易なる生存を欲するのではないのでありますが眞實なる各自の魂は寧ろ深き久惱の内より大なる困難にぶつかつて深い愉悅を感ずるものであります吾々の魂夫れ自身は無限に強く大なるものであります

久惱に徹さんとする心
凡そ人間である吾々は大丈夫としての本懷の故に人即神の實現の爲に出來得るだけの大きな考へを爲してその理想に向つて邁進すべきではありませんか久惱に徹さむとする心こそ困難への藉邁こそ人の價値の尊さであつてそれこそ人を高め向上せしめるのであります詩人の言葉を借りて云へば爲さんと欲する誓願こそ我々の生命なのであります多難は愈々來つて愈々喜びあり迫害は愈々來つて愈々勇氣の源乎たる式餓のところに人の全的躍動は現れるのであります全宇宙の刻々なる生命の躍動を御覽なさい全生命の不斷なる創造を思ひ見よ其の驚異はあなた方自身の――に見出さなければなりません頂々たる成功は長るべき人の生命の侮辱ではありませんか彫人なる未完成に向つての失敗こそ人間の偉大に對する思實なる事が出來たと言つた處でそれは少しも人間の天分の説明とはならないのであります詩人は言つて居りました

卒業生の訪れ

三井物産漢濱支店
在勤の卒業生の訪れ

拜啓「ムサシノ」御送り下被有難う存じます。

此頃立教がモクモク成長して行くのをあらゆる方面で見る事は僕達出身者にとつてどんなに嬉しい事かしれません。

只此の上僕達の望む事は立教が成長しながらも立教らしい匂ひをいつ迄もそのまゝ殘してゐてほしいことです。立教のベーヌボールの選手がちつともスポーツマンらしくなくきやしやで苦な足が六參の樣に細くて、それで試合をすればきつと負けてばかりゐても、それでも立教らしいハイカラな匂ひを持つてゐて呉れゝば明治や法政などが田夫野人な感じをグランド全體にさらけ出すのに比べてどんなに有りがたいかしれやしません。但しそれで二番强くなつて呉れゝば此れに越したことはないのですが「ムサシノ」もどうぞ發展して下さい、ケデクチイものでなくてもつと素的なものを作つて下さい。學校の人達から見ると卒業生などといふものは學校に對してはまるで熱情うに思つてゐんでせうが大いに違ひます。卒業して一度も學校へ行かなかつたり、先生の所へ便をせなかつりそんな失禮な事はぎらにしてゐます。それですからと言つて學校を忘れてしまつてと思はれたら弱ります新聞に一寸でも「立教」といふ文字が見えると僕達は眼を皿の樣にしてしまひます。それが少しでも嬉しい種類の事ですとれこそ手の舞ひ足の踏むをしらぬ程狂喜してまふんですそんな理由ですから「ムサシノ」がよくなればなる程僕達を有頂天にしてしまふ事が出來るのです。どうぞ出來る丈の努力をして下さい。

先は御禮まで

十月二十六日　S生

一つの學校に校歌が無いとといふことは一國に國歌がないのと同じやうなものである。立教の精神を表した高唱すべき校歌を望んでゐるのは俺一人ぢやあるまいで。(投)

學生欄

旅行雜感（一）

（前號の續き）

武藏野學院旅行部特派員
しんや

河原で石の寫を築いてタ方なすました頃から天氣工合が變たつた。それでも氣にもせず我々は一日の旅の疲れで天幕の中に入つた。天空には星一つ見へなかつた。

……

天幕が暗黑の中で一搖ぎした。俄然僕の顏の上に水玉が散つた……雨だ……風も相當にでてゐる。天幕旅行で最も恐ろしい雨だもう明朝の薪も全部しめつてしまつた。起き上つて上から吊された小田原提灯に點火した。天幕の内側は水玉に潤ほされて異樣に輝やいた。時計をだして見るとまだ十二時過ぎたかりだつた。どうやら河に水が增した樣だ。物すごい異樣な響が私の耳を襲つた皆の顏にはいひしれぬ不安の色が讀まれた。我々は起き上つてしまつた遂うとう三時まで我慢した。その間の三時間は實に永く感ぜられたのは勿論だつた。

夜が明け切らぬうちに我々はゴルフ場の番小屋の爺さんを頼りに雨の中を突進した。爺さんは別にいやな顏もせずに我々を迎へてくれた、そしてよく提灯の明りで登つて來たと言つて感心してゐた。

我々は冷えきつた體を爐端で温めた最初の間はただ無言のまゝに火を慕つて品たがSが口を開いた。

爺さんは何處の生れかときいたら彼んだ眼を輝やかして江戸子だといつた、それから爺さんは話したすがつれて私はその話に興味を引かれた。話はこうだつた。

「ふむ……あなた方は甲府へぬけるですかそりや大變ですね、この雨は明日一日は續くだらうね、だけど實際據野の秋はよいですからね。秋になるとよく東京から來ますがね。私ももうこの山奥に三年も引込んでゐるんで東京の人が實際なつかしくなりますよ。此處にも東京の人の別莊が一軒ありますが夏だけで常は留守番の女がゐるきりですがね。

私は一寸其處へ一語を入れた。

「あの蕨ケ茶屋のならびにある家がへ別莊と云ふのは」

「え、……さうなんです、何でも内閣の書記官長とか云ふ林田樣て云ふですがね、此の頃二十七とかになる女が留守番に來てゐるんでね、その女て云ふのが孕んでゐるんですよ、何でも元は南洋とかにゐたて云ふ豪傑なんでしてね、今ぢや蕨ケ茶屋へ來る大工と關係ある樣な話ですがね、すつと以前には林田さんの本宅で仲働とかをやつてゐたんださうですが南洋あたりに連れ出されて孕んで歸つて來たんださうですよ、可愛さうにね。」

側に居たKが私の胞をついた、そしてKと私とは直覺的に松林の中で會つた女と最初私共が天幕を張らふとした別莊とを結びつけてしまつた。

立教大學文學部
美しい エハガキ
池袋師範裏通り
大地屋書店
日本一
池袋常盤通り
カフエーピンク
池袋大原一、三八〇

バスケットボール部の遠征

立教バスケットボール部は去る五月の大會に日組日本選手權を得てより やうやく世間に認めらゝに至り自後今日に至るまで日と共に長足の進歩をなし、遂にはその强味を示すべく時機到り玆に關西遠征は行はれる事となつた。眞に慶賀すべきだ。そして到る所に連戰連勝。皆あの不撓の練習と、上に立つ野村、横山其他諸氏の熱心な指導との賜だ。我々は今日まで風の日はあつてもバスケットボール部の練習の絶えた事は見た事はない。あの精神と努力とあつてこそだ。深く選手諸君に謝し此度の成功をいはふ次第である。

武藤先生以下、木村マネジヤーを加へて一行のメムバー左の如し

野横山佐野松小垣野東
村山内木村崎西村城
（憲）（瞳）（久）
G.C C.C.G. G F.F. F.F. F G G

バスケットボール部關西遠征日記

—教バスケッバー部—

廿五日

丁度粹木が紅葉し始めた秋もやうやく更けやうとする十月廿五日、此の晩をスタートとして我がバスケットボール部創始以來始めての遠征は關西に向つて企てられたのだ。連日の好晴に反して空は少しどんより曇つてゐた。東京驛に九人の選手が見送りの諸氏と皆くの別れに互に交談に餘念のなかつた間に時計が八時三十分を指すと汽車は動き出したのだ萬歲の聲。「しつかりやつて來い！」「勝て」別れる前の檄勵の言葉がいつまでも耳を掩ひ、心を打つ。いつか左の窓に品川の海が何はれ次には大森邊の田の間をまつしぐらに走つてゐる。

× × ×

雨が降り出した。風さへもうなりを上げる、丁度沼津邊を通過の時だ薄紫の靄の中に明滅してゐた燈火がうすれてゆく。汽車はひた走りに走る。——と此の時、嗚呼 十月廿六日の太陽は朝の大氣をその面一杯に呼吸して元氣よく昇つた。右の窓には琵琶湖が輝き、その面を帆が動く。雨後の日に輝く自然程美くしいものはない。スポーツマン又人である否スポーツマンこそ眞に詩情をも感じ得る完全な心の所有者だ。同音に嘆美の聲を發す。曰く「とても素敵だなあ—」あゝこの語の中にこそ無限の生氣ある詩情があふれて居るのだ。

大津も過ぎた。

京都だ。——午前八時三十分。

先着の野村、木村二氏に迎へられ、三條小橋龜屋旅館に入る。一晩位寢なかつたからつて元氣なものだ茶を一杯すゝるとすぐ圓山公園から清水まで見物に行く。

午後には皆揃つて岡崎公園のゴルフを見にいつた。學校のコートを見つけて居た日にはとてもひどいもの、樣に見えた。平安神宮を拜して歸る。夕方にはたんぜん麥の大男があの賑やかな京極の通をぞろ〳〵のたくつて歩いた。エンプロゲッションやニュースキンをやたらに塗りつけて七時半には床に就く。

× ×

廿七日

七時半起床。十一時には京極食堂の風雅な座敷で京都に應はしい韻律と奥ゆかしさとを持つ美くしい聲を聞きながら土地の情調にひたりながら書食を終る。

この日試合は一時からあつた。始めてユニホーム麥になつた一回が岡崎公園に向ふ。Y•M•C•A及び Ch. Ill. と云ふ倶樂部と二組の試合をする。スコアーは四對一五。三七對一五。勝負は問題外だつた。四月以來ボールドを仰ぎボールを握つて汗しない日とてはなかつた立教軍に何で敵となれやう。先づ出首は良し。唯この日のゲームは遠征中否今までに最も感じの惡いものだつた事を遺憾に思ふ。

ゲーム中武藤先生が到着された。夜は小學校に思はぬ有志の Reception を受けた。

× × ×

廿八日

紫色に霞む山。靜かな鴨川の流れ今日はいよ〳〵この街にもお別れた御機慾よう我々を厚く遇し呉れた京の人々よ。

朝、荷物は車につまれた。十時四十分愈々京都を去つて神戸の港街へ。

神戸にて——こゝのY•M•C•A•は立派なものだつた。各々に室が與へられる。室は洋式で一寸日本味を加へて造られてゐた。こゝでは三度の食事も洋食だつた。港街でこんな生活だから異國情緒のにほひかとした三階の道路に面した窓から、港の煙吐く煙と下いく小さい人や電車を見て時を過す。

晩七時からIndoorのゲームが行はれた。電氣が暗い上にあの完不全なゴール。結果から見ても如何にも接戰の樣に見える。事實まるでゴールは少なかつた。十四對四。

明日は又荷を整へて大坂へ向ふのだ、夜は疲れたまゝ早くベットに横たはる。そして今日は學校では英語會だと不圖思ひ出した。

× × ×

廿九日

太陽が元氣よく昇つた。天氣都合のいいのが何よりだ。九時過には愈々大阪へ來た。あの幾多市街な貫いて流れる福の廣い美くしい川、その川に架せられた數多い橋。浩岸の建物。そのまゝ詩。そのまゝ繪だ。北川。——これがこゝでの宿だ。水に臨んで市廳を仰ぐ邊はよいとして京の龜屋を思ひ出すと品を缺いた、大阪らしい此の宿が何とはなく批難されがちだつた。人間がたいものも何だか川や建物に對してそぐはぬ樣に思へた。

この日の午後にはY•M•C•A•と試合があつた。始めから我軍は大阪を壓した調子が馬鹿によく三七對一〇で立派に勝つ。

川に沿つて長い々々地域を有し、とても完備した中の島公園。たしかに又と無難い公園だ。我々は煙の都としてしられたこの大阪を水の都として稱されるを得ない立場に至り裏切られた樣な心さへ感じた。水の都大阪はかくで好き嘆美の言葉もで思ひ出されるであらう。夜は松崎さんの招待を受けてよき時を過す。

× ×

三十日

目を覺して今日も輝く太陽を讃美する。よく日和の續いて呉れる事を我々は深く謝すべきだ。昨日の招待の折「明日は是非工場を見物に」と招かれたのぐ今日は塚口に森永の工場を見物する。此の時以來歸京までお土產に貰つたチヤイナマーブルは一行の好伴侶となつた。

連日の戰に連勝、どうやら坊主にもならず、お江戸の街も威張つて歩けさうなので休養の爲とあつて此の日寶塚に遊ぶ。處が此精養がきいて翌日のゲームは苦しいものだつた。天も無情だ。

三十一日の日記は紙面の都合上省略致しました。

バスケットボール部の方におわびします。

◆廣告料
○六號活字十六字詰一行三十錢○雜報欄一行五十錢○場所選定二割增

◆新聞代價
○一部五錢○六ケ月前金三十祇○一ケ年前金六十錢○郵稅一ケ年廿四錢

◆新聞販賣所
大學消費組合
大地屋書店
ミドリヤ書店
池袋驛賣店
目白驛賣店

文歐和
刷印版製
武藏野印刷所
○一九袋池外市
（師範學校北隣）

相變らず爐端で着物を乾かしてゐる。六疊敷の板の間の片隅に積重れられた我々の荷物が怪物樣に薄暗いランプ黃色い光で輝かされてゐる。私はまだ頭の中にさきの女の顏やはちきれ相によくへ肥た肉體を思はせる樣な其姿がさまよつてゐた。そして淫蕩な風に送られて南洋までに出掛けて行つた大膽な一女性について考へて見た。たとへ其の原因が何處にあらふとも其の樣な肉のたゞれた生活に追ひやる現代社會の呪はしい樣に考へられた。そしてその林田とか云ふ家の處置についても考へて見たがそれはあまりに其女性に對する理解がない樣に思はれた姙娠した一女性を此の山間に追ひやつてしかも獨りで置くと云ふのはどう考へて見ても充分親切のこもつた處置ではあるまい。女性の特性とし男に賴る心の起るのは當然のことゝ思ふが再び彼女をして前程の樣な苦しい經驗を繰りかへす樣な處置を私は殘念に思つた。

私共は板間で爺さんと朝飯を共にした。（完）

『ムサシノ』を讀みて

成蹊學園　K、S　生

むさしの」なんと云ふ廣大無邊な思はしむる良い名でせう。

我々の樣な都會生活にくさ〳〵した心を……名を聞くだにも廣々たる「むさしの」それは我々の心を十分に淸くする事の出來る名であります僕は書方と云ひ文と云ひ下手です。けれどこのふさはしき名のパンフレットを路傍に立てる一學生より求めて思はず知らず書きました。

センドポールゼフアスド……と唄はる、……

それは云ふまでもなく

「むさしの」……の

發行さるゝ處です。

其の亦建てる立敎は

名にふさはしの「むさしの」……に

赤く高く聳え立つ。

高かくかゝれる十字架は、

イエスの君を偲はしむ、

めがみの愛は何處にも、

垂れ給はざる處なし。

其の愛ふかき立敎の、

近くに住める此の吾に、

如何に多くの幸やあらん。

幸やあらん……。

ふるへ「むさしの」『立敎』よ。

（二・十一・一）

選手月旦評（水泳）

商豫一　齋藤巍洋君

立敎が有する至寶中の最も貴い而して誇べきものは我が齋藤巍洋君でなくてはならぬ。

齋藤君は芦和田中學の生みし選手にして、中學時代既に彼の關西の雄茨木中學選手と共に競泳大會に出場して若冠はやくも弓箭の威風を示してゐた。立大入學後は、YMCAのプールに斯界の大剛にたち交りて隱忍技を練つて只管時期の來を待つてゐたのである。果せる哉。今秋調布の淸流に擧行されたインタカレッチエートには、嶄然頭角を現はし、百米背泳に

ニューレコードを作り、八百米に、中距離の奇才とうたはれた彼の一高の松澤選手を屠り堂々優勝したのであつた。更に數日の後二び調布プールに擧行された全日本競泳選手權大會には彼の最も得意とする百米背泳に出場し奮鬪よく二着をかち得て、一躍斯界を驚異せしめて措かなかつた嗚呼。齋藤君は立敎の齋藤君にあらずして、日本競泳會を代表する選手である。明春大阪に行はれる極東大會には、なくてはならぬ人となつた。さらば、かの競泳會の大選手ノルマンロッツともたとふべき我が齋藤君更に〳〵に自重なされ益々技を練磨されんことを我等は祈るのである。立敎のために。日本のために。

…召上レ…
正午の休みには
手輕の洋食を
立大地下室
ブリユーバード
本店　池袋常盤通

待つてゝる
あたゝかいコーヒーと
おでんが
皆樣を待つて居る
立大地下室ホール
カフエー牧野

冬が來た
オーバコートと
御制服の調度は
中村洋服店

比類なき勉强振り
各大學校
各中學校
制服調進
野々宮洋服店
府下淀橋柏木四〇七獨江坂

◉毎週金曜日發行
基督教週報
◉壹部金拾錢
美しい藝術の世界と幸福なる宗敎の生活とに生きやうとなさるゝ方のよい相談對手です希望の方はハガキ申込なさい
東京京橋南八丁堀一丁目一番地
基督教週報社
電話京橋二二〇三番
振替東京五〇六四八

全ての御調進に應じます
各學校
諸官省御用
西山洋服店
東京池袋一一一六
九段坂中央
本店
電話九段四六六四

皆樣へ
オーバコート制服は是非とも
慶應義塾
各大學御用
小川洋服店

Coffee & Tea served as they should be.

西洋菓子
紐育ベーカリー
池袋師範裏通

顧問 本居長世
音樂教授
池袋一、一六六
自由音樂院

住味のしるこ
萩乃餅
すし
豊島師範筋横角
カフエー松村

『スタイル』は洋服の生命です
『スタイル』は弊店の生命です
ストン商會
牛込區鶴巻町電停前
電話番町一九八〇

營業科目
東京パン各種
乾麺各種
アサヒパン粉
家庭用小麦粉

市外高田町雑司ヶ谷
東京製パン株式會社
電話豳番町一〇三四番

青山四丁目停留場前
青山賣店

市電大塚終點
大塚賣店

小石川關口水道町
（山吹町通）
江戸川賣店

帝國劇場内
帝劇賣店

巣鴨町四丁目
巣鴨賣店

少年野球用
印「クンタ」
ルーポジンポス

東京市外高田町雑司ヶ谷千番地
高砂護謨株式會社
電話番町五〇〇一番

御服裝ノ御調度ハ是非御用命ヲ……
高島屋洋服店
本店 京橋區木挽町貳丁目十三番地
電話京橋一一八一番
支店 芝區三田四國町慶應下
電話高輪二九六七番

□全譯 宗教經驗の諸相 ウイリアムヂエームズ著 比屋根安定譯 定價四圓五拾錢 送料貳拾七錢
□柏井全集第一卷 中川景輝編 定價貳圓五拾錢 送料拾錢
□聖者 フオガツアロ著 小野村・吹田共譯 定價參圓 送料拾錢
□信仰に生きて 武本喜代藏著 定價壹圓八拾錢 送料拾錢
□靈魂不滅觀 下村孝太郎著 定價四圓 送料拾錢
□ひとりの歌 別所梅之助著 定價壹圓五拾錢 送料六拾錢
□宗教に關する科學及哲學 森明著 定價貳圓五拾錢 送料拾錢
□信仰日記 大正十二年用 警醒社編纂 定價壹圓八拾錢 送料拾錢
□短篇說教集 元田作之進著 定價五拾錢 送料六拾錢
□短篇講話集 同 定價六五拾錢 送料六拾錢

發行所 東京市京橋區尾張町 振替東京五五三番 警醒社書店